

二十八〜三十二歳の「アラサー」世代は、新卒で就職しなかった人の割合が二割に上り、十歳上の「アラフォー」世代の二倍に当たる。大阪商業大JGSS研究センターの調査で分かった。非正規雇用の割合もアラフォーより多く、「就職氷河期」が数字で裏付けられた。

# 不遇 アラサー

## 新卒で未就職 アラフォーの倍

調査は昨年一〜三月、一九六六〜八〇年生まれの男女を選んで実施。回答した二千七百一十七人を、六六〜七〇年生まれでバブル期に就職活動を経験したアラフォー(三七〜七五年生まれ)と七六一〜八〇年生まれのアラサーに分け比較した。学校を終えてすぐに就職しなかった割合はアラフォーが11・8%だったが、アラサーは20・4%に上った。男女別では、アラフォー男性10・1%、同女性13・1%に対し、アラサーはそれぞれ18・8%、21・8%だった。最初の就職が派遣社員などの非正規雇用だった割合は、アラフォー

## 非正規の割合は3倍「少子化に拍車も」

18・3%に対しアラサーは21・3%。男性ではそれぞれ5・7%に16・7%と三倍の開きがあり、アラサー女性の四分の一は当初非正規だった。また、初めての職が非正規雇用だった男性のうち、結婚を経験した割合は45・8%で、正規雇用だった男性の69・5%を大幅に下回った。女性は非正規72・1%、正規81・9%だった。調査に当たった岩井紀子同大教授(家族社会学)は「景気動向による就職機会の格差は、少子化や年金などにもつながる社会的問題だ」と指摘している。